



3月12日

短編集で文部科学大臣賞

申原中学校3年生の安藤帆乃さんが、第61回全国学芸サイエンスコンクール小説部門、中学生の部に応募された864作品の中から最優秀賞の金賞を受賞し、さらにコンクール全体の29部門の金賞受賞作品の中から内閣総理大臣賞に次ぐ、文部科学大臣賞を受賞しました。安藤さんは「初めてコンクールに作品を応募した。普段から物語を書いたり、小説を読んだりすることが好きで、1つの挑戦として短編集を書きました。金賞だけでなく、文部科学大臣賞も受賞できて驚いた。これからも書くことを続けていきたい」と喜びを話しました。作品の題名は『一瞬が一瞬になるとき』。



3月7日

6年間の功績で武並小が消防庁長官賞

阪神・淡路大震災を契機に平成8年度に創設された、防災まちづくり大賞は消防庁が主催し、災害に強い安全なまちづくりを推進するため、防災に関する優れた取り組みや工夫などを表彰しています。伊藤孝明君は「6年間やってきて良かった。特に家でもできる毛布担架演習が印象に残っています。体験したことを思い出し地域でも生かしていけるようになりたい」と述べ、遠山希さんは「親と一緒に体験した災害図上訓練が印象に残っています。今まで習ったことを災害時や事前準備で生かしていきたい。地域に伝えていきたいです」と話しました。



2月27日

要支援者の避難を合同訓練で確認

岩村コミュニティセンターで恵那市版DCAT合同実地訓練が実施されました。DCATとはDisasterCareAssistanceTeam（ディザスターケアアシスタンスチーム）の略で、災害時に派遣される福祉人材チームのことです。岐阜DCAT隊として市内の6人の方が登録されています。

訓練は一般避難所に、身体障がいや精神障がいを持った要支援者が避難したと想定。要支援者に要介護度や服薬、アレルギーなどを聞き取り、その結果から必要な避難先や避難スペースを決めていきました。各避難者を会場内に区画された福祉待機や医療待機といったスペースへ誘導しました。



2月25日

恵那の伝統芸能、ここにあり

恵那文化センターで恵那市伝統芸能大会が開催されました。28回目となる今回は「守ろう 繋ごう 恵那の伝統芸能」をテーマに市内10団体が出演しました。大井文楽保存会は、大井小学校6年生が人形遣いや太夫などを担当し「伊達娘 恋 緋鹿子 火の見櫓の段」を上演。児童らは「総合的な学習の時間」で学習した成果を発揮し、会場からは盛んに拍手が送られました。人形遣いを務めた原心音さんは「練習を重ねてできるようになりました。緊張したけど楽しく演じることを大切にしました」と振り返りました。伝統芸能をはじめ、多くの文化に触れる一日になりました。



3月18日

春の大正村をランナーが快走

明智町で第34回日本大正村クロスカントリーが開催され、県内外から1,921人がエントリーしました。コースは10マイル、6マイル、2マイルの3コース。晴天に恵まれたこの日、ランナーは大正ロマンの薫る町並みをさっそうと走り抜けました。

今大会の最高齢の参加者は、市内の柘植功さんで87歳でした。また遠方から参加者は、北は茨城県守谷市、南は沖縄県宜野湾市からの参加がありました。会場では、五平餅など地域の特産品の販売や昔懐かしいポン菓子無料配布、モノレール体験などが行われ、来場者らを温かくもてなしました。



3月11日

百人が市少年消防隊を修了

市内の小学5年生と6年生の希望者が入隊する市少年消防隊は、本年度、規律や消火訓練などの活動や部外研修、消防出初式での行進を行い、1年間の活動を終えた188人のうち、6年生100人が修了式を迎えました。修了隊員を代表して、岩邑小学校6年の伊藤愛さんに安藤克己消防団長から修了証が授与されました。修了隊員を代表して、1年間隊長を務めた三郷小学校6年の水野立基君は「活動を通じて火の怖さや命の尊さを知りました。貴重な経験を忘れず火の用心に心がけ、明るいまちづくりに励みたいです」と活動を振り返りました。



2月27日

ハナモモを植樹して恵那峡の新名所へ

恵那峡再整備事業が進んでいる恵那峡県立自然公園内のさざなみ公園に、関西電力株式会社東海支社からハナモモの苗木100本が寄贈されました。寄贈を記念してそのうちの1本を、福沢桃介氏の銅像がある公園広場に植樹しました。

このハナモモは、日本で初めてのダム式発電所である大井発電所を建設した「電力王」と呼ばれた福沢桃介氏が、発電所の水車を購入するためにドイツを訪れた際に見つけ、持ち帰ったのが日本での始まりと言われています。恵那峡と福沢桃介、ハナモモは切っても切れない縁があります。その縁から新たな名所が恵那峡に誕生します。



2月26日

県下初の広報大賞受賞

岩村町富田地区で活動しているNPO法人「農村景観日本一を守る会」が、全国農業振興技術連盟が主催する「農業農村整備事業広報大賞」の最高賞である、広報大賞を受賞しました。農業農村整備事業広報大賞とは、農業農村整備事業に係る広報活動で特に顕著な功績のあった団体に対して表彰しているもので、今年度で27回目。県内では初めての受賞となりました。吉村攻平理事長は「10年間行ってきたことを評価してもらったと思う。活動は大きなことはできず、地道にみんなでやってきたことが結果になったと思う」と受賞を喜びました。